

科目名		建築実務講座(都市とエネルギー)				
担当教員		石井 孝典		実務授業の有無	○	
対象学科		建築士専攻科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	34時間
授業概要、目的、授業の進め方		<p>エネルギーは、私たちの生活を様々な面で支えている大切な資源である。しかし、エネルギーの消費によって私たちが恩恵を受けている反面、窒素酸化物（NOx）や硫黄酸化物（SOx）、二酸化炭素（CO2）などの大気汚染物質の排出、エネルギーの最終形態の廃棄物である排熱などが発生し、環境に負荷を与えている。エネルギー消費による排熱は、都市のヒートアイランドの原因の一つであり、温室効果ガスである二酸化炭素（CO2）は地球温暖化や気候変動といった地球環境問題を引き起こす要因とされている。このようにエネルギー消費は環境負荷をとまなうことから、エネルギーをいかに低く抑えながら、上手にエネルギーを使用していくことが、これからのエネルギー消費に求められている。</p> <p>本講義では、「身近な生活とエネルギー」、「自然環境とエネルギー」、「社会環境とエネルギー」、「従来からのエネルギーシステム」、「これからの都市・地域エネルギーシステム」について学習する。</p>				
学習目標（到達目標）		省エネ・再生可能エネルギーに関する知識を建築設計及び施工管理に活かせることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布資料				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	科目ガイダンス			授業開始の前にこの科目の目的と学ぶ概要について説明する。		
2	身近な生活とエネルギー 自然環境とエネルギー			エネルギー消費の歴史と課題、エネルギーのとらえ方と評価、地球環境とエネルギーについて学ぶ。		
3	社会環境とエネルギー エネルギーの流れと需給構造			エネルギー情勢および行政・政策、エネルギーシステムが備えるべき性能、まちづくり・インフラの中のエネルギーシステム、エネルギー供給の流れを学ぶ。		
4	従来からのエネルギーシステム			電力供給システムを学ぶ。		
5	これからの都市・地域エネルギーシステム(1) ～地域熱供給システムとエネルギーの面的利用～			地域熱供給システム、エネルギーの面的利用に向けて、負荷を減らす、消費量を減らす知識を学ぶ。		
6	これからの都市・地域エネルギーシステム(2) ～環境負荷の小さいエネルギー源を利用する～			未利用エネルギー、再生可能エネルギーについて学ぶ。		
7	これからの都市・地域エネルギーシステム(3) ～都市・地域エネルギーシステムの計画・運用と制度～			需給のマッチング、計画と運用のためのソフト面の取り組み、スマートシティ・エネルギーシステムを学ぶ。		
8	都市・地域エネルギーシステムのベストプラクティス			国内編（事例紹介）、欧州編（事例紹介）について学ぶ。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験90%、出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				学科試験に合格したことでの自信と実力を基に最大限努力してほしい 今までの集大成として望んでいただきたい		
実務経験教員の経歴		一級建築士として、建築物の設計、工事管理について、15年間携ってきた。				

科目名						建築実務講座（福祉住環境コーディネーター2級検定対策）					
担当教員			佐藤 静			実務授業の有無			○		
対象学科		建築士専攻科		対象学年		1		開講時期		後期	
必修・選択		必修		単位数				時間数		144時間	
授業概要、目的、授業の進め方		高齢者や障害者を取り巻く社会情勢はめまぐるしく変化している。高齢者に関しては「介護保険法」の改正が2006年に施行され、また、団塊の世代が定年を迎え高齢者に仲間入りするのはすぐだ。障害者に関しては「障害者自立支援法」が2006年に、「発達障害者支援法」が2005年に施行された。一方バリアフリー施策が見直され、これまでの高齢者や障害者を中心とした考え方ではなく、すべての人々を対象とする「ユニバーサルデザイン」の考え方が注目されている。高齢になっても安全・安心して快適な住生活ができる限り長く継続できるようにするには住環境の整備は特に重要である。									
学習目標（到達目標）		福祉住環境コーディネーター2級の試験に合格出来る事を目標とする。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料		書名 福祉住環境コーディネーター2級検定公式テキスト（東京商工会議所）									
NO.	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境（福祉住環境コーディネーターの役割と機能）					高齢化社会で、高齢者が自立生活を継続できる住まいを確保し、生活の質を高めるためにコーディネイトするかの知識を習得する。					
2	障害のとりえ方（リハビリテーションと自立支援）					「障害」のとりえ方を理解し、そのとりえ方に沿った自立支援の手法について学ぶ。					
3	高齢者・障害者の心身の特性（それぞれの障害を学ぶ）					障害にはさまざまな種類があり、障害によってADLの問題点が異なる。障害者の心身の特性を知り、理解を深める。					
4	在宅介護での自立支援のあり方（高齢者の生活環境をいかに整えるか）					住み慣れた地域や自宅で主体的に暮らしていくためには、周囲の人々の適切な支援や生活環境を整えていくことが不可欠であることを理解する。					
5	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備（高齢者に多く生ずる疾患を学ぶ）					高齢者に多く生じる疾患によってもたらされる不便・不自由の程度を理解し、住環境整備によって、その軽減を学ぶ。					
6	障害別にみた福祉住環境整備（障害を持ちつつ自立生活を）					障害の種類や程度によってもたらされる不便・不自由はさまざま。障害者が残存機能を生かし、自立した生活がおくれるように支援することを学ぶ。					
7	福祉住環境整備とケアマネジメント（相談支援体制について学ぶ）					ケアマネジメントにおける住宅改修の流れと、相談支援体制を理解し、福祉住環境整備のアセスメントの視点を学ぶ。					
8	福祉住環境整備の進め方（相談援助の基本的な考え方と方法）					援助関係、面談技術などの相談援助の基本的な考え方と方法。福祉住環境整備における実践的な進め方について学ぶ。					
9	福祉住環境整備関連職への理解と連携（相談援助の実践的な進め方）					保健、医療、福祉、建築など多くの関連職種がかかわってくる。それぞれの専門性を理解し、どのように連携をとるかを学ぶ。					
10	福祉住環境整備の共通基本技術（生活行為別福祉住環境整備の手法）					段差の解消等の基本技術について、その具体的な対応方法。障害者の生活動作や身体状況を考慮した適切な手法を学ぶ。					
11	福祉用具の意味と適用（生活行為別にみた福祉用具の活用）					福祉用具選択の際の基本姿勢と適応評価の留意点を学ぶ。					
12	住宅改修等の事例演習（住環境整備の事例を実践的に学ぶ）					本人と家族の状況や要望を整理し、新たなライフスタイルを検討。住環境整備の事例をととして、コーディネイトの視点を学ぶ。					
評価方法・成績評価基準						履修上の注意					
各テーマ毎の模擬試験の成績により評価する。 模擬試験90%、出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						今後予想される、超高齢化社会においては、建築業界に限らず必ず必要な知識です。 建築設計に活用してください。					
実務経験教員の経歴						住宅設計に10年携わってきた					

科目名		建築実務講座（設計コンペ）				
担当教員		熊谷 貴子		実務授業の有無	○	
対象学科		建築士専攻科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	78時間
授業概要、目的、授業の進め方		新潟県建築士会の建築設計コンペに参加することを目指す。 それにより建築設計における発想力とプレゼンテーション力の向上を図る。				
学習目標 （到達目標）		建築設計において発想力は重要です。建築デザインで社会問題の解決能力を身に付け、付加価値の高い建築の設計能力を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布資料				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	コンペの「課題テーマ」の概要説明			コンペ作品の見せ方を学ぶ		
2	テーマに合わせた抽出作業			各班毎で意見の集約		
3	設定地域の選択			班ごとにコンセプトに合わせた地域の選択作業を行う		
4	コンセプト発表			各班毎にコンセプトを発表		
5	設定地域の現地確認			各班毎に設定地域の確認を行う 敷地の形状、地域の状況		
6	エスキース作業 1			エスキース作成指導		
7	エスキース作業 2			エスキース作成指導		
8	プレゼンボードデザイン及び模型製作			作図作業（PC、手書き）及び模型の製作		
9	作品の発表及び講評			各班毎に発表を行う。それに対する講評		
10	指摘事項の修正作業			内部審査会での指摘事項に対する修正作業		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
提出された作品で評価する。成果物(エスキース)90%、出席状況10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				設計コンペに参加する以上、入賞を目指してがんばること。		
実務経験教員の経歴						
設計業務、インテリアコーディネーターとして8年実務に携わる						